

方形器物ヲ鑄ルノ法ヲ習得セシム

右ノ法ヲ習得シタル後各自ノ意匠ヲ用テ器物ヲ新作セシム

第三年

方形生底花瓶

兔置物

岩上観音置物

器物動物人物佛像等〔まるがき〕全鑄ノ法ヲ習得セシメ及ヒ此法ヲ應用シ

各自ノ意匠ヲ用テ丸物ヲ新作セシム

鍛 金 科

鍛金科は明治二十八年九月に開設され、囑託教師桜井正次、平田宗幸が指導にあたった。前記の「第一回生徒成績物展覧会出品目録稿」は同科が開設される前に作成されたもので、同科については次の記述があるのみであって、教程は把握できない。

鍛金標本目録

- 無紋銅器 一個
- 唐花彫銅器 一個
- 靈芝鈕鉄香炉 一個
- 鍛金順序 七個
- 鍛金道具 一式

鍛金標本説明

金属ヲ鍛鍊シテ之ヲ打出シ諸種ノ器物ヲ作ルノ順序ヲ示スモノナリ

第一 地金

第二 地金ヲ切りタル処

第三 打始メ法

第四 打出シ法(其一)

第五 同 (其二)

第六 形ヲ取り始ムル処(其一)

第七 同 (其二)

第八 前方法ニ依リ打上ケタルモノニテ素銅色ヲ付ケタルモノナリ

第九 前ニ全シク彫刻ヲ施シ火色ヲ付ケタルモノナリ

第十 前ニ全シク鉄ヲ用キテ新案シ彫刻ヲ施シテ後鑄せヲ付ケタルモノナリ

ただし、本学芸術資料館所蔵の手板(毛彫、鋤彫、打出等の手本)や器物の手本によって教程の一部を知ることができる。

漆 工 科

岡倉寛三は漆工教育の開始にあたって教師の人選に苦慮した様子である。例えば次のような話も伝わっている。

……東京美術學校に漆工科をおかるゝや、時の學長岡倉寛三氏人を介して泰眞を招かれしも、かたく辭してつかず、余は一箇の蒔繪師のみ、いかでか人に授くる才學あらん、又これを教ふる術を知らず、さりながら余の業を職として學ばんとする者は余が工場に入るを拒まずと。岡倉氏これをきよてしふること